

第1回第2次白馬村スポーツ推進計画策定委員会 会議録（要約）

招集年月日	令和2年1月8日（水） 午後2時00分			
招集の場所	白馬村保健福祉ふれあいセンター 2階学習室			
開閉会の日時	開会	令和2年1月8日（水） 午後2時00分		
	閉会	令和2年1月8日（水） 午後3時10分		
出席者数	委員数 11名の内 出席者 9名			
出席委員	職名	氏名	職名	氏名
	委員長	山岸 忠	委員	下川 辰男
	副委員長	浅原 昭久	委員	飯島 忠一
	委員	松澤 忠明	委員	松澤 宏和
	委員	横澤 幸一		
	委員	稲田 良太郎		
	委員	太谷 陽一		
事務局	生涯学習スポーツ課 係長	柏原 英司	生涯学習スポーツ課 主査	内川 直人
傍聴者	なし			

1. 開 会

2. 委嘱状交付

白馬村スポーツ推進計画策定委員会設置要綱第3条に基づき、教育委員会より委嘱した。

3. あいさつ

○平林教育長

お忙しい中、委員を引き受けていただき感謝申し上げます。村民、スポーツ団体、行政等が一体となってスポーツ振興に取り組んでいくため、「第2次白馬村スポーツ推進計画」の策定にご協力をお願いしたい。

4. 委員長及び副委員長の指名

白馬村スポーツ推進計画策定委員会設置要綱第4条に基づき、教育委員会より指名した。

委員長 白馬村体育協会 会長 山岸 忠 様

副委員長 白馬村立白馬中学校 校長 浅原 昭久 様

5. 委員及び事務局職員の自己紹介

6. 協議事項

(1) スケジュール（案）について

事務局が資料のとおりスケジュール案を説明した。

(2) 現行の白馬村スポーツ推進計画について

事務局が資料のとおり現行の推進計画の達成状況について説明した。

(3) 第2次白馬村スポーツ推進計画策定に係る意見交換について

○委員

村民運動会の参加者が少ない。スポーツ関係者が援助やアドバイスをを行い、スポーツらしい、また、運動会らしいイベントにされたい。

○事務局

村民運動会が推進計画のどの部分に該当するのか、アンケート結果等も踏まえ、公民館も交えて検討したい。

○副委員長

中学校における課題は、子どもの数が減っており、部活動を維持していくことが困難である事。近隣の小谷や美麻、八坂では実際に無くなっている部がある。保護者からは、部の存続を求める声も

あるが、先生が3年から5年で異動してしまったり、専門外の競技を担当する場合があったりと、一定の状態を保つことが難しい。その中でより良い環境を作るため、週に一度は地域の方に指導をお願いするなどを検討している。

○委員長

地元の子どもの大会参加が少なく、寂しく思う。学校の協力も是非お願いしたい。

○副委員長

中学生も多様化しており、部活動以外での活動も多い。目標設定にあたり、人数など「量」だけでなく、満足度や達成度など「質」へ転換する部分も必要ではないか。

○委員

スポーツ少年団では、各競技を行き来できるような仕組みができないかといった案も出ている。試合への出場は難しくても、イベントの参加だけでもできるような体制を作れるよう動き始めた。

○事務局

他の自治体の計画等を調べる中で、「する」スポーツだけでなく、「観る」、「支える」といった視点も重要と感じる。また、目標設定についても施策ごとに数値目標がある自治体もあれば、全体の大きな部分だけ数値目標を設定している自治体もある。目標設定についてもどのようなものが望ましいかご意見を伺いたい。

○委員長

過日行われたラグビーのワールドカップを例にとっても、「観る」という視点も大事ではないか。

○委員

スポーツをする場、スポーツを通じて世代を超えた交流の場を提供することが重要。現行の計画を策定するにあたり、スポーツをする、その目標人数を達成するという視点で「する」が前提にあった。

○委員

「やってみたい」にも個々のレベルがあり、場所や時間の問題もある。窓口を明確にして「やりたいけどできない、わからない」を減らすことが必要と感じる。

○委員

アンケートを取り、健康福祉課、保健師、保育士等とも連携しながら現状の分析をすることが重要。

○委員

目標に対しての結果を検証、分析し、新たな目標設定をすることが重要。社協の立場では、高齢者や

障がい者の部分は是非残していただきたい。白馬村のシニア世代は、大北管内で一番元気だと聞く。また、計画の中に SDGs（持続可能な開発目標）を取り込めれば良い。実際に取り込んでいる自治体もある。

○委員

前回の策定時も課題であったが、ニーズが多様化する中で指導者の確保をどのようにしていくか。また、地域特性を活かした国際交流は冬場だけでなく、夏場もできるのではないか。特に若年層の国際交流は、将来的に大きな財産になると考える。

○副委員長

子ども達の 10%は外国に縁があり、共生している。やっていることも多様。国際的視点、多様の視点を無くすと白馬村の独自性が無くなってしまう。フリーライドワールドツアーなど、白馬村でしかできない大会や企画を継続し、発信し、またその数を増やしていくことが重要と考える。

7. その他

次回会議は2月5日（水）予定である事を確認。今回の意見を事務局にて集約し、協議をする。

8. 閉 会